

耐震診断結果一覧表の見方

確認の手順

構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価は、次の①から③の手順で確認してください。

要安全確認計画記載建築物の耐震診断結果

【主要地方道 ○○線(××通)】

No	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果※	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	○○小学校	京都市○○区○○町○番地	小学校	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$Is/Is_{\text{so}} = 1.18$ $CTuSd = 0.72$			
2	△△小学校	京都市△△区△△町△番地	小学校	建築物の耐震診断及び耐震改修の実施について技術上の指針となるべき事項第1第2号に定める建築物耐震診断の方法	$Is = 0.55, q = 2.85$ (改修工事中)			
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

① 同じ耐震診断の方法の名称を探す

③ 同じ安全性の評価を探し確認する

② 同じ数値となる評価を探す

附表 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

※ ①耐震診断結果のうち最小値のものを記載

② $Is_{\text{so}} = 0.6, Z \cdot G \cdot U = 1.0$ とする。

③構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の分類

耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
	I	II	III
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版、2017年版)	$Is/Is_{\text{so}} < 0.5$ 又は $CTuSd < 0.15Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq Is/Is_{\text{so}} \text{かつ} 0.3Z \cdot G \cdot U \leq CTuSd$
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)	$Is < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq Is \text{かつ} 1.0 \leq q$
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める第2次診断法及び第3次診断法(1977年版)	$Is/Is_{\text{so}} < 0.5$	左右以外の場合	$1.0 \leq Is/Is_{\text{so}}$
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める第2次診断法及び第3次診断法(1990年版)	$Is/Is_{\text{so}} < 0.5$ 又は $CTuSd < 0.15$	左右以外の場合	$1.0 \leq Is/Is_{\text{so}} \text{かつ} 0.3 \leq CTuSd$ $1.25 < CTuSd$
⋮	⋮	⋮	⋮

I 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。

II 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。

III 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。

震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示すもので、いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはないものとされています。

耐震診断結果の一覧表の整理の方針

- 構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価は、構造上の棟別や階別等により算出された評価のうち、最小値を記載しています。
- 一棟の建築物で複数の耐震診断方法を採用した場合は、採用した診断方法別に安全性の評価の最小値を記載しています。
- 耐震改修等の予定には、耐震化の方針が検討中のものや方針は決定しているものの実施時期が未定であるものについては記載していません。